文化的要素からみた授業分析：就労支援日本語クラスの教科書分析から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中尾, 桂子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/7014

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

大妻国文　第51号　二〇二〇年三月

文化的要素からみた授業分析

―就労支援日本語クラスの教科書分析から―

中　尾　桂　子

【キーワード】 教室での文化統制，SPEAKING，文化的文脈要素分析ツール，教科書

1　はじめに

教師個人の文化が日本人一般の文化とかけ離れている可能性，一教師の文化的知識がごく一面的で浅薄である可能性に，教室の中の教師はどの程度真摯に向き合うことができているだろうか。「よかれと思って」の指導は，文化的要素に対する教師の「当為」の規範意識を学習者に強制することになっていないか。また，半ば強制的に「一般的」な知識を与えることで，学習者から，教室での異文化体験の機会を奪っていないか。

言語教育の現場で教科書の中のハイコンテクストな文化的要素を扱う場合に，日本語教師は日本文化の担い手のある種の代表者として学習者に接することも多い。教師は常に，自身の教師ビリーフに影響される可能性があることを意識し，自身を客観視して授業を分析しつづける必要があるが，その客観的観点を保持しつつ，自己検証するのは難しい。

教師は，学習者個人が目的とする言語世界を考えながら，「個人ベースで考える」部分を中心にして「批判的な見方」を育てること，「個人での気づきを促す」指導を行うべきで，気づきが，文化的文脈を自身のもの（international competence ）にする行為になるという点に配慮しなければならない。またこれら指導は，教室での対話を通して，教師にのみできる指導であることも意識

しなければならない。これらの配慮と意識に基づいて，ハイコンテクストな文化的要素を学習者の異文化体験のために積極的に扱っていきたい。

そこで，文化的統制に抵触するかという観点で授業内にて扱われる文化的要素やその扱い方を分析するツールを探したが，その中の1つ，McConachy（2009）のSPEAKINGの可能性を検討する。今回は，ステレオタイプの場面設定が多いと考えられる就労支援のための日本語クラスの教材『はたらくための日本語 職場のコミュニケーションⅠ』の導入場面を分析することで，McConachy（2009）の分析に対する考え方やその手法の有用性について検討してみる。

2　学習時の文化的なメタ認知向上ツール

Hymes（1974）は，コミュニケーションには文法や語彙だけでなく，それらが使用される文脈である文化的要因と社会的要因の関連性も重要だと強調し，コミュニケーションのアプローチを８つの要素としてモデル化した。この８要素，Setting/Scene，Participants，Ends，Act，sequence，Key，Instrumentalities，Norms，Genreの頭文字を取り，mnemonicにまとめ，語学教育のためのコミュニケーションモデルとしてSPEAKINGと呼んだが，これはコミュニケーションを考える語学教育の世界で広く応用されている。

表１　**Hymes（1974）**のSPEAKINGモデルのコンポーネント

SPEAKING mnemonic	**Component meanings**
Setting or Scene 設定やシーン	The physical circumstances　物理的な環境
Participants 参加者	This includes the speaker, hearer, or others preset at the setting　全ての関係者
End（goal） 終了（ゴール）	The motives of the participants　参加者の動機
Act Sequence 行為の形式と内容	The types of speech acts that appear in the sample and the way they are sequenced in relation to each other　発話行為と順序の関係

Key （tone, manners, spirit）	The general tone of conversation　会話のトーン
Instrumentalities 手段	Rules for interaction　相互作用のための規則
Norms of interaction and Interpretation 相互作用の規範と解釈	The kind of speech event　スピーチイベントの種類
Genre 発話の種類	The kind of speech event 発話事象の種類

だが，SPEAKINGは，話者の心中での言語と文化の関係を説明していないという指摘もある（Carranza, 2017）。一方で，Hudson（1996）は，社会言語学的立場から，文化的知識がコミュニケーションに影響すると主張し，文化と思考と言語の関連性を図１のようにモデル化している。

McConachy（2009）は，Carranza（2017）の指摘を受け，Hudson（1996）

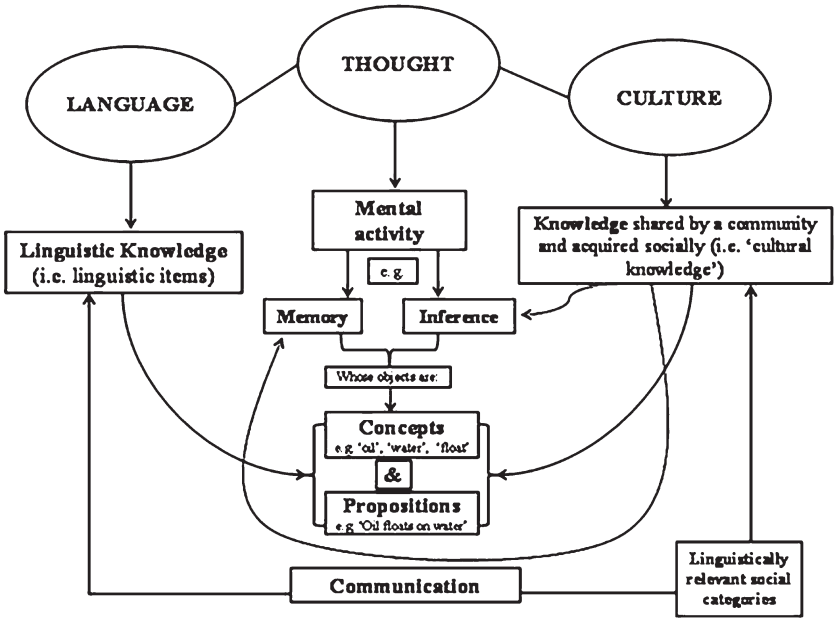

図１　言語，思考，文化の関係（Hudson, 1996）

を参考に異文化間教育における立場から，学習者が言語使用上の文化的な仮定や価値観の影響についての意識を高めるためには，コミュニケーションの側面を洞察的に解釈し，批判的に自己分析することが有益だと考えた。そして，Hymes（1974）開発のSPEAKINGモデルに基づいて，話者の心中により添わせる形で学習者用「社会文化的文脈要素」分析ツールを提案した。McConachy（2009）は，CarranzaやHudsonらと同じく社会的文脈理解があってこそ言語能力が向上するという立場だが，さらに，教師の役割・授業デザイン再考し，教師と生徒が文法，構文，標準化された単語でのみ対話を見ている限り，言語能力向上のための学習としては無駄だとして，様々なケースでの検証を繰り返した。そして，分析ツールにより，学習者それぞれが目的とする言語世界を「個人ベースで考える」こと，「批判的な見方」を育てること，かつ，「個人での気づきを促す」ことを示した。そして次の2点を具体化するツールを開発した。

◆言語使用に影響を与える無数の社会文化的要因を際立たせる
◆そのメタ意識が異文化間コミュニケーションの潜在的な違いを予測・認識する力（コンピテンシー）となり，学習者を言語行動への参加に誘う

このツールを用いることで，文化的文脈を学習者自身のものにし得る点，学習時の文化的なメタ認識が向上する点が認められたとして，通常のクラスの流れに異文化間学習の機会を構築する利点を主張している。また，McConachy（2009）は，学習者用のツールを応用して教師向けの文脈分析ツールも開発している。社会文化的文脈要素は，相対する立場からでも利用可能な概念だと考えられる。

表２　**McConachy（2009）**の「社会文化的文脈要素」分析ツールの意識向上の観点

Pedagogical application（rationale）	**Component question to help teacher analysis**
Develop awareness of the effect of the setting as influ-	Is there a connection between the language used and the location of communication? In other words, if the setting

encing what is said or not said in a conversation as important 設定効果認識向上	were different would the language still be appropriate? 使用される表現とコミュニケーションの場所との間に関連はありますか。言い換えれば、設定が異なっていても、その表現はまだ適切でしょうか。
Develop awareness of the interpersonal dimension of language use 対人的認識向上	What is the relationship between participants. How is the language used representative of the relationship of the participants? Again, if their social relationship were different, would you expect the type of language use to also differ? 参加者間の関係はどのような関係ですか。参加者の関係を表す表現はどのように使われていますか。また、もし社会的関係が違っていたら、表現のタイプも違っていると予想しますか。
Develop awareness of the purposeful nature of communication 意図認識向上	Who initiated the conversation? overall, what are the participants trying to achieve through communicating? Is there an obvious goal? Do all participants have the same foal? How is this tied to the relationship of the participants and the setting, etc? 誰が会話を始めましたか。全体として、参加者はコミュニケーションを通じて何を達成しようとしているのでしょうか。明らかな目標はありますか。すべての参加者が同じ距離を保っていますか。これは参加者の関係や設定などとどう関係していますか。
Develop awareness of how ends are strategically negotiated in interaction 交渉目的の戦略性認識向上	What speech acts are present in the interaction? how are the 'ends' achieved through structured interaction? Are there a number of different conversational topics? is there significance in the sequence in which they occur? e.g. Flattery may precede a request. What discourse markers are used to shift or change topics? インタラクションにはどのような発話行為がありますか。構造化された相互作用によって「目的」はどのように達成されるのでしょうか。会話のトピックは多様ですか。それら発生順に意味はありますか。例えば お世辞は要求に先行してもよいとかです。トピックが移動または変更されるために使用される談話マーカーは何ですか。
Develop awareness of the ways in which emotions and subtle nuances are conveyed 感情や微妙差の伝達方法への意識向上	What clues can be observed in the communicative event that let us know the tone of communication or feelings of the speakers? Do the speakers hesitate when saying certain things? Why is this? コミュニケーションのトーンや話者の気持ちを私たちに知らせるために、コミュニケーションの出来事にはどのような手がかりが見られますか。ある話をするとき、スピーカーは躊躇していますか。どうしてそれらが見られますか。

Develop awareness of register and other sociolinguistic variation in language use 言語使用域による言語的変動への認識向上	Is the language used polite, casual, or in-between? Is there evidence that the participants are using a particular variety of English? 使用されている言語は丁寧ですか。カジュアルですか。またはその中間ですか。参加者が特定の種類のことば遣いをしいるという証拠はありますか。
Develop awareness of the influence of culture on communication and rules for politeness 礼儀や文化的規則の影響認識向上	Are there any observable social rules of conversation that the participants are adhering to, or not adhering to? In the case of misunderstanding, what deviation from interactional norms or other ambiguities may be at the root? 参加者が遵守している、または遵守していない、観察可能な会話における社会的ルールがありますか。誤解がある場合には、どのような相互作用の規範があると考えられますか。または，あいまいさからの逸脱のようなものが根本にある可能性がありますか。
Develop awareness of the types of interactional sequences that characterize certain discourse 談話特徴相互作用順種認識向上	What type of discourse is it? e.g. Telephone discourse, a face-to-face conversation, informal conversation, an interview, a lecture, etc. What elements of language appears that indicate a particular type of discourse? どのような種類の談話ですか。例えば 電話談話、対面会話、非公式会話、面接、講義などです。特定のタイプの談話を示す言葉のどの要素が表示されていますか。

3　応用と分析

McConachy（2009）が提案した学習者用「社会文化的文脈要素」分析ツールの各意識向上の観点を，教科書の内省的授業分析の観点として応用し，教師側の視点で捉え直した授業内文化的要素分析シートとして検討した。それは，比較，示唆，振り返り，選択という学習者の行動から，教科書や授業の文化要素の扱われ方を見るのと同時に，教師が自らの文化的要素の扱い方を分析するためである。教室活動を分析するための観点を表 3 にまとめる。

表3　McConachy（2009）に従いHymes（1974）のSPEAKINGで整理した分析用観点

nakao
Component question to help teachers'analysis
教室活動において教師の立場から行なうこと
・学習者は，各自の母語，自国の設定との比較を行なっている ・日本での態度，行動，日本語での表現のあり方を学習者が意識している ・学習者に考えや意識を発言する機会を設けた ・学習者どうしで意見を交換している ・　交換した意見や発言に対して，反応を返す機会を設けている ・パフォーマンスへの批評を行い，何を評価すべきか確認した
・メンバーをどう認識しているか確認した ・テキストの各課題での行動メンバーを都度確認したか ・人数調整を行ない，参加者に関する設定の微調整を行なった
・目標の行動を，各課題毎に確認した ・評価の観点として示し，クラス全員の認識を確認した ・（各課題での実行，到達状況，評価の方法を確認した）
・行動，表現方法，形式的知識，理由を提示した ・話しの流れ，会話の展開の流れに対する認識を確認した ・練習時，確認した流れや形式が遵守されているか，遵守されていない場合はなぜかを観察した ・フィードバックした
・パフォーマンス時の声のトーン，やり取りのタイミングや方法について認識しているか確認した ・認識内容がどのようなものかを確認した ・理解すべきポイントとその理由を確認した
・いくつかの手段，形式的スキルを紹介した ・複数の手段やスキルの違いを紹介した ・どれを選ぶかを決める機会を設けた ・どれを選んだか、その理由が，クラスメンバーに認識されているか確認する機会を持った
・行動方法やその理由についてクラスメンバーで考えた ・行動方法の違いとその理由をまとめる機会を設けた ・どれを選ぶかを決める機会を設けた ・どれを選んだか，その理由が，クラスメンバーに認識されているか確認する機会を持った
・各自の実行について，メンバー全員や本人が振り返る機会を設けた

・振り返ったないようについて話し合う機会を設けた

McConachy（2009）の「社会文化的文脈要素」分析ツールの各意識向上の観点に基づいて視点を変えて検討しなおし，独自に整理した観点（表３右nakao列）を用いて，教科書『はたらく人の日本語』（JICE）の導入部分に相当する箇所を分析した（表４）。

表４　McConachy（2009）に従いHymes（1974）のSPEAKINGで整理した教科書分析（一部）

『はたらくための日本語』職場のコミュニケーション１			**nakao**
L3　自己紹介			**Component question to help teachers' analysis**
ウォーミングアップ	目標	やってみましょう／まとめの練習	教室活動において教師の立場から行なうこと
自国の職場の新入社員の歓迎方法と日本で初対面の人との会話の話題について，経験をクラスの皆に話す	日本で就職先の１人の人と初対面の会話をする場合のポイントを認識	日本での就職先での夜の歓迎会の席で隣にきた初対面の人と２人で話す	・学習者は，各自の母語，自国の設定との比較を行なっている ・日本での態度，行動，日本語での表現のあり方を学習者が意識している ・学習者に考えや意識を発言する機会を設けた ・学習者どうしで意見を交換している ・交換した意見や発言に対して，反応を返す機会を設けている ・パフォーマンスへの批評を行い，何を評価すべきか確認した
クラスのメンバー	自分（自己内省）	職場のスタッフ新入社員と「私」（その他スタッフがそばにいる設定で３人の練	・メンバーをどう認識しているか確認した ・テキストの各課題での行動メンバーを都度確認したか

		習の場合も）	・人数調整を行ない，参加者に関する設定の微調整を行なった
●歓迎方法の比較で差異の有無やその内容を認識する ●初対面の会話での話題を認識する	日本の職場での歓迎方法で，初対面の自己紹介と，受け答えができるようになることを目標として意識する	日本での就職先での夜の歓迎会の席で隣にきた初対面の人と2人で自己紹介し合い，話す（うまくできるかロールプレイで発表してみせる）	・目標の行動を，各課題毎に確認した ・評価の観点として示し，クラス全員の認識を確認した ・（各課題での実行，到達状況，評価の方法を確認した）
●行動と話し方を考える ●話題毎の受け答えの方法を考える	●初対面の挨拶 ●初対面で話すことが何かを理解し，受け答えができるとはどういうことかを意識して，実行する方法を確認する	日本での就職先での夜の歓迎会の席で隣にきた初対面の人と2人で自己紹介し合い，初対面の会話での話題を認識して，既知の受け答えの方法を実行する	・行動，表現方法，形式的知識，理由を提示した ・話しの流れ，会話の展開の流れに対する認識を確認した ・練習時，確認した流れや形式が遵守されているか，遵守されていない場合はなぜかを観察した ・フィードバックした
どのように話すか，相手との間合いの取り方や言葉遣いをどうして決めるかを考えたり，意識したりする	初対面の話し方や態度を認識し，実行しようと意識する（相手の所属を聞いて自分の挨拶と話し方を選んで決められる）	どのように話すか，相手との間合いの取り方や言葉遣いをどうして決めるかを認識して実行に移す	・パフォーマンス時の声のトーン，やり取りのタイミングや方法について認識しているか確認した ・認識内容がどのようなものかを確認した ・理解すべきポイントとその理由を確認した
初対面であることを知る言い方とことば，言葉遣いはどのようなもので，どうしてそう決めたかを指摘できる	初対面であることを知る言い方とことば，言葉遣いがいくつかあり，参加者の立場で選びわける必要があるこ	初対面であることを知る言い方とことば，言葉遣いはどのようなもので，どうしてそう決めたかを意識して実	・いくつかの手段，形式的スキルを紹介した ・複数の手段やスキルの違いを紹介した ・どれを選ぶかを決める機会を設けた ・どれを選んだか、その理

か対話を通して意識する	とを認識して、実行の際に意識しようとする	行する	由が，クラスメンバーに認識されているか確認する機会を持った
なぜ，どのような行動をとるか，日本社会でのルールや考え方を認識する	なぜ，どのような行動をとるか，日本社会でのルールや考え方を認識して，練習の際に，意識しようと考える	認識した社会的ルールや考え方に基づいてロールプレイで実行する	・行動方法やその理由についてクラスメンバーで考えた ・行動方法の違いとその理由をまとめる機会を設けた ・どれを選ぶかを決める機会を設けた ・どれを選んだか，その理由が，クラスメンバーに認識されているか確認する機会を持った
個別の自己紹介の挨拶，会話であることを認識する	２人で行なう個別の自己紹介の挨拶や丁寧な会話であることを認識して練習の際に実行しようと意識する	個別に簡単な自己紹介の挨拶，会話をする場合の発話の種類を認識して実行する	・各自の実行について，メンバー全員や本人が振り返る機会を設けた ・振り返ったないようについて話し合う機会を設けた

『はたらく人の日本語』は各課に導入として「ウォーミングアップ」「目標」「やってみましょう／まとめの練習」の部分があるが，そこに書かれている内容を「社会文化的文脈要素」分析ツールの各意識向上の観点に照合してみると，次のように，テキストの導入部分の文脈上の働きや目的が整理された。

テキスト特性：

●流れ

自身の現状意識化→課題設定や文脈を理解→設定条件に沿うパフォーマンス

●ここでのポイント

客観視や抽象化によるメタ認識がカギ＝指導者の誘導力

独自観点に変更はしているが，McConachy（2009）に準じることで，テキスト特性として，授業の流れを文化的視点で客観視し得ることから，SPEAKINGを応用して，テキスト分析，学習目的の再認識，意義・理念の明確化につながり得ることが確かめられた。テキストの文化的文脈に着目してメタ認知的考察を行うことは，学習目標が言語項目から文脈に一歩踏み込む方法を示唆している。また，これは，何を何のために教えるのかといった，学習目的と理念とを振り返る行為でもあり，教師用ルーブリックへと発展させられることも期待できる。

ただし，今回は，特定の教科書の導入部分のみを分析してみた結果である。語学教育の練習課題の分析や，まとめ，テストなどの分析でも試してみる必要があるし，授業シラバスや，授業自体を分析してみるべきである。

さらに，教科書の流れと個別の活動との連携は，社会的視点に基づいた指導者側の誘導力に負うところも大きい。また，テキストや課題毎の特性を超えた抽象化，標準化の方法を考える必要もある。引き続き，いくつかの分析を続け，総合的に分析観点の検討を行いたい。今後の課題である。

※本稿の内容は，スペイン日本語教師会の第 4 回シンポジウム（2019年 6 月）での発表を基に加筆修正したものである，本研究はJSPS 科研費 18K02847の研究成果の一部である。

＜参考文献＞

Hudson, Richard（1996）. *Sociolinguistics. 2nd ed.* Cambridge. Cambridge University Press.

Hymes, D.（1974）. *Foundations in Sociolinguistics : An Ethnographic Approach.* Philadelphia: University of Pennsylvania Press.

Troy McConachy（2009）. Raising sociocultural awareness through contextual analysis: some tools for teachers. *ELT Journal 63,* 116-125.

Vázquez Carranza, A.（2017）. What is language for sociolinguists? The variationist, ethnographic, and conversation-analytic ontologies of language. *Linguistik Online, 83*(4).

一般社団法人日本国際協力センター（2019）『はたらくための日本語 職場のコミュニケーションⅠ』株式会社ラーンズ.